

-2 中洲等の改善

河川の縦断方向の連続性は、横断施設のみによって阻害されるのではなく、中洲や河口閉塞等によっても阻害される。

中洲の発達や河口閉塞は、河川の流況、土砂動態及び海域の波浪等、自然の力によって生じるが、利水に伴う流量減少がその原因となる場合がある。

中洲や河口閉塞は、著しく発達して河川をほとんど遮断し、魚の移動の大きな阻害要因となる場合があるため、必要に応じてこれを改善する。

以下は、信濃川における事例であるが、信濃川と支川である魚野川との合流点には、魚野川の流量が多いために中洲が発達し、信濃川へのサケの遡上が困難な状況にあったため、これを掘削して遡上環境が改善されている。

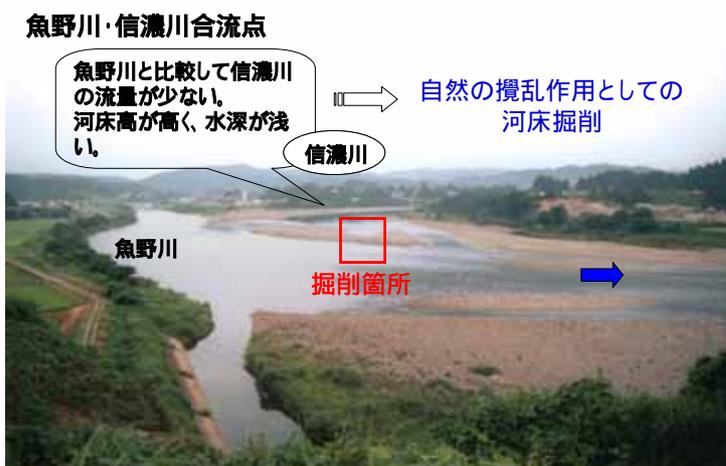
事例 信濃川 ～中洲の掘削による遡上・降下環境の改善～

対象地域：新潟県 信濃川

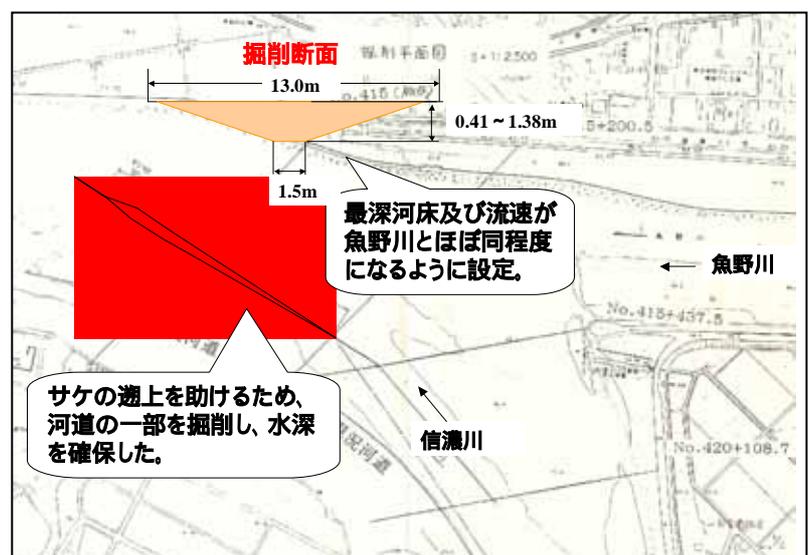
実施理由：信濃川・魚野川合流点では、土砂の堆積により合流部に中洲が形成され、信濃川本川へは魚が遡上しにくい環境であったため、改善が実施された。

実施時期：平成 14 年度に中洲の掘削を実施。

実施体制：平成 11 年 1 月に関係機関や有識者によって「信濃川中流域水環境改善検討協議会」が設立され、遡上環境の改善のためにサケの遡上に配慮することを目的とし、信濃川・魚野川合流点における中洲の掘削計画が検討され、信濃川の最深河床と魚野川の最深河床がほぼ同水深となるように、また、流速が魚野川とほぼ同じようになるように、最大深さ 1.38m × 最大幅 13m × 延長約 280m の断面を設定し、掘削が行われた。「信濃川中流域水環境改善検討協議会」は、学識経験者、流域市町村、新潟県、長野県及び河川管理者で構成されている（事務局：国土交通省信濃川河川事務所）。



魚野川合流点における信濃川河床の掘削場所



掘削場所の平面図・断面図



出典) 信濃川河川事務所資料